

子どもの権利・子育て支援条例づくりを進める8つの業務

① 市民会議の運営



子どもと大人が対話を重ね、未来への願いや地域課題を整理し、条例素案づくりにつなげる。



実施回数
15回



対象
子ども委員16名
大人委員7名



対話／声の整理／条例素案づくり

② 専門家会議の運営



専門的な知見から条例づくりを支え、条例素案の質の向上に貢献する。



実施回数
4回



対象
専門家5名



助言／妥当性確認／質の向上

③ 子ども・子育て会議の運営



現場の声や実態を共有し、市民会議だけでは見えにくい課題や視点を条例素案に反映する。



実施回数
3回



対象
現場関係者15名



現場の声／実態共有／支援の視点

④ 出向く意見収集（アウトリーチ）



市民会議だけでは拾いきれない、多様な子どもや家庭、現場の声を集め、条例素案に幅広い視点を反映する。



実施回数
必要に応じて実施



対象
学校・福祉施設・子どもの居場所・支援団体等

※ アンケート実施も検討中



届けにくい声／現場訪問／多様な視点

⑤ 中間報告



集まった市民の声や条例づくりの進捗を広く共有し、透明性を確保しながら、議会・市民との対話を通じて条例の質を高める。



実施回数
2回



対象
一般市民・市議会議員



進捗共有／透明性／対話

⑥ オープンハウス型意見交換会



条例素案を展示し、市民が気軽に内容を確認し、対話できる場をつくる。



実施回数
5日程度



対象
一般市民



展示／対話／参加機会

⑦ パブリックコメント



条例素案を広く公開し、市民一人ひとりから幅広く意見を募集する。



実施期間
約4週間予定



対象
一般市民



オンライン公開／意見募集／反映検討

⑧ 多角的な情報発信



条例づくりの過程や市民の声を継続的に発信し、市民が進捗を知り、参加できる環境をつくる。



実施期間
事業期間中を通して実施



対象
一般市民

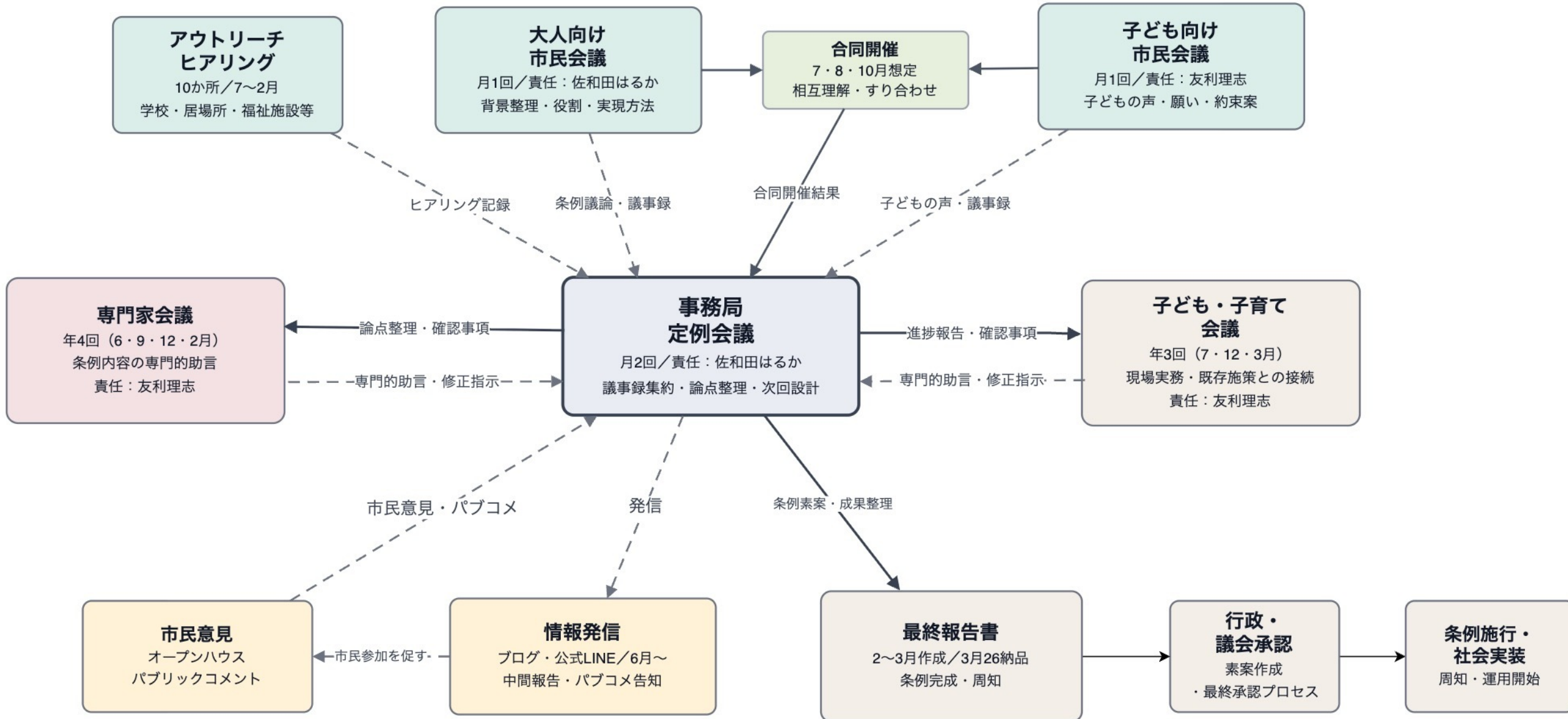


見える化／継続発信／参加促進



市民の声・専門的知見・現場の実態を重ね合わせ、子どもを真ん中にした条例づくりへ

子ども・子育て支援条例づくり 会議体フロー



市民会議

子どもと大人が対話を重ねながら、
宮古島の未来への願いや地域課題を整理し、
条例素案づくりにつなげる。

実施回数

15回

参加人数（同じメンバーで継続参加）



子ども委員
16名



大人委員
7名

主な実施内容

1 市民会議の 企画・設計



- ・子ども会議
- ・大人会議
- ・合同会議
- ・ワークショップ設計・当日運営

2 条例素案の 意見抽出



- ・行政が作成する条例素案を
市民目線で確認
- ・市民会議として意見を整理
- ・修正提案を行う

3 個別訪問（アウトリーチ）で 出た声の共有



- ・個別訪問やアンケートで
集めた声を共有
- ・市民会議で不足している
視点や課題を補完

4 パブリックコメントと オープンハウス型意見交換会で いただいた声を共有



- ・パブリックコメントやオープンハウス
で寄せられた市民の声を共有
- ・条例素案への反映について
意見交換

5 制定後の運用の あり方の検討



- ・条例を作って終わりにしない仕組み
- ・子どもの声を継続して聞く方法
- ・地域で条例を育てるアイデア整理

15回の会議タイムライン

子どもと大人が同時進行で対話を重ね、最後に結果を共有

フェーズ1：子どもの権利と条例について理解を深める

フェーズ2：条例素案づくり本格化

フェーズ3：条例素案磨き上げ

フェーズ4：結果共有

第1回
7/26
(日)
合同



第2回
8/9
(日)
合同



第3回
8/16
(日)
合同



第4回
9/13
(日)
子ども



第5回
9/13
(日)
大人



第6回
9/20
(日)
合同



第7回
11/8
(日)
子ども



第8回
11/8
(日)
大人



第9回
11/22
(日)
子ども



第10回
11/22
(日)
大人



第11回
12/6
(日)
子ども



第12回
12/6
(日)
大人



第13回
1/31
(日)
子ども



第14回
1/31
(日)
大人



第15回
2/14
(日)
合同



合同 … 子ども委員と大人委員が合同で実施

子ども … 子ども委員のみで実施

大人 … 大人委員のみで実施

※時間帯は全日程共通（後日確定予定）

子どもと大人、それぞれの役割

子どもと大人、それぞれの役割を重ねながら、
宮古島の未来を一緒につくります。

子ども委員

多様な子どもの声から、実情と課題を抽出



- 1 日常のモヤモヤを話す
- 2 自分だけでなく周りの子どもにも目を向ける
- 3 「こんな宮古島だったらいいな」を考える



宮古島の未来

条例素案づくり

大人委員

社会の構造を見つめ、解決策を考える



- 1 大人が抱える背景や気持ち、実情と課題を出し合う
- 2 社会全体で起きている現実や構造を知る
- 3 子どもたちの願いをかなえるための解決策を考える

専門家会議

子どもの権利や子育て支援に関する専門的な知見を活かし、市民会議や条例策定プロセスの妥当性を確認するとともに、条例素案の質を高める。

実施回数

4回

参加人数

5名

専門家一覧（確定）

- ・糸数温子氏 / 琉球大学 こどもまんなかウェルビーイングセンター 特命講師
- ・鈴木秀洋氏 / 日本大学 危機管理学部 教授・学部次長
- ・寺田明弘氏 / ゆいま〜る法律事務所（沖縄弁護士会）弁護士
- ・羽地知香氏 / 沖縄女子短期大学 児童教育学科 講師
- ・林 大介氏 / 東洋大学 福祉社会デザイン学部 准教授

主な実施内容

1 市民会議全体設計への助言



- ・市民会議の進め方を確認
- ・開催時間やテーマ設定を確認
- ・問いや対話設計への助言
- ・子ども参加への配慮事項を整理

2 条例策定の方向性に関する助言



- ・子どもの権利条例と子育て支援条例を一体的に検討
- ・多様な子どもや家庭の声を反映する視点を整理
- ・市民会議で見えてきた論点を確認

3 条例素案の確認



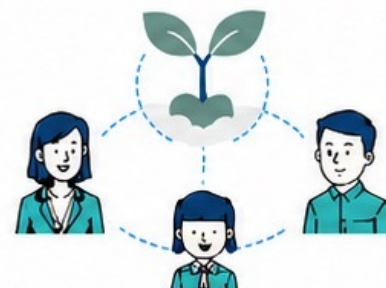
- ・市民会議成果の反映状況を確認
- ・偏りや見落としを確認
- ・子どもの視点や権利保障の観点から助言

4 追加調査や情報収集の必要性の検討



- ・追加アウトリーチの必要性を検討
- ・不足している視点を整理
- ・今後の情報収集方法を助言

5 制定後の運用や継続体制への助言



- ・条例を育てる仕組みを検討
- ・子どもの声を継続的に反映する方法を考える
- ・次年度以降の運用・評価体制への助言

4回の会議タイムライン

専門的な視点から継続的に支え、条例の質を高める

フェーズ1

市民会議の全体設計支援

第1回 | 6/15

フェーズ2

条例の方向性検討への助言

第2回 | 10/5

フェーズ3

素案の確認・精度向上への助言

第3回 | 12/14

フェーズ4

運用・継続体制への助言

第4回 | 2/9

子ども・子育て会議

宮古島で子どもに関わる現場の声や実態を共有し、
市民会議だけでは見えにくい課題や視点を、
条例素案に反映する。

実施回数

3回

参加人数

15名(確定)

子ども・子育て委員の構成

- ・幼稚園・保育園
- ・学校関係者
- ・福祉事業所
- ・子育て支援団体
- ・児童館
- ・放課後児童クラブ等

※いずれも子どもに関わる現場の大人

主な実施内容

1 現場の課題や 実態の共有



- ・子どもや家庭を取り巻く現状を共有
- ・日々の支援活動で感じる課題整理
- ・市民会議では見えにくい声を共有

2 市民会議で出てきた 内容への意見交換



- ・市民会議で出た子どもの声を確認
- ・条例素案に込められた想いを共有
- ・現場の視点から意見交換

3 条例素案への助言



- ・現場で実現可能な内容か確認
- ・支援現場から見た不足点や懸念点を整理
- ・多様な子どもや家庭への配慮について意見を出す

4 宮古島らしい子ども・ 子育て支援のあり方の検討



- ・地域資源を活かした支援を考える
- ・行政・学校・家庭・地域の連携について意見交換
- ・条例制定後に必要な取組の方向性を整理

5 制定後の運用に向けた 現場ネットワークづくり



- ・条例を地域で育てる関係づくり
- ・現場同士の情報共有
- ・次年度以降の連携・協力体制について意見交換



現場の声 × 市民の声 × 地域の力で、子どもを真ん中にした条例づくりへ



出向く意見収集(アウトリーチ)

市民会議だけでは拾いきれない
多様な子どもや家庭、現場の声を集め、
条例素案に幅広い視点を反映する。

実施回数

10箇所

対象 (参加人数:未定)

 学校  福祉施設  子どもの居場所
 支援団体 個別ヒアリング対象者 等

主な実施内容

1 子どもや家庭への 個別訪問・ヒアリング



- ・子どもへの個別ヒアリング
- ・保護者へのヒアリング
- ・小規模グループで意見交換

2 教育・福祉現場への 訪問



- ・学校関係者との意見交換
- ・福祉施設・支援団体へのヒアリング
- ・現場で感じる課題や実態を把握

3 アンケート調査の検討



- ・子ども向けアンケート(検討)
- ・保護者向けアンケート(検討)
- ・幅広い市民の意見収集方法を検討

4 市民会議で不足している 視点の補完



- ・声を届けにくい子どもの意見収集
- ・多様な家庭環境の実態把握
- ・地域ごとの課題や特徴を整理

5 条例素案づくりへの反映



- ・収集した意見を整理・分析
- ・市民会議、専門家会議、子ども・子育て会議へ情報共有
- ・条例素案へ反映する要素を抽出

届けにくい声 × 現場の実態 × 条例づくりへ

中間報告

これまでに集まった市民の声や条例づくりの進捗を広く共有し、
透明性を確保するとともに、
市民・市議会議員と対話しながら条例の質を高める。

実施回数
2回

対象
一般市民
市議会議員

主な実施内容



2回の中間報告タイムライン 市民の声 × 見える化 × 対話を通じた条例づくり

第1回



市議会議員向け中間報告
(一般市民は傍聴可能)

開催時期	10月頃
対象	市議会議員・一般市民(傍聴者)
形式	対面実施
内容	中間報告資料作成／条例素案の経過説明／ 一般市民は傍聴可能／意見交換

第2回



一般市民向け公開・記者発表

開催時期	12月末
対象	一般市民・報道機関
形式	オンライン公開・記者発表
内容	オンライン公開／記者発表／ 条例素案の状況共有／ シンポジウムやパブリックコメント 参加を呼びかけ

オープンハウス型意見交換会

条例素案を広く公開し、

市民が内容を理解しながら気軽に対話できる場をつくる。

また、パブリックコメントだけでは拾いきれない疑問や意見を直接聞き取り、

より多くの市民が条例づくりに参加できる機会を創出する。

実施回数

5日程度

(1日あたり3～4時間程度)

対象

一般市民

(子ども～大人まで)

意見交換会の中でやること

1 条例素案の展示



- ・ 条例素案を展示
- ・ 条例づくりの経過をわかりやすく紹介

2 条例づくりの経過説明



- ・ これまでの取組を紹介
- ・ 子どもや市民の声を共有
- ・ 条例づくりの流れを説明

3 気軽な対話・相談コーナー



- ・ スタッフとの対話
- ・ 質疑応答
- ・ 「これってどういう意味？」を気軽に相談

4 市民意見の収集



- ・ 付箋による意見投稿
- ・ アンケート記入
- ・ パブリックコメントの案内

5 条例づくりへの参加機会の創出



- ・ 参加機会を広げる
- ・ 多様な市民の声を集める
- ・ 条例素案へ反映する要素を整理

展示 × 対話 × 市民参加で育てる条例づくり

パブリックコメント

条例素案を広く公開し、市民一人ひとりから幅広く意見を募集する。
また、条例づくりを市民全体の取り組みとし、多様な価値観を反映した条例づくりにつなげる。

実施期間

12/20～1/20

約4週間(予定)

対象

一般市民

(子ども～大人まで)

主な実施内容

1 条例素案の公開



- ・ 条例素案をオンラインで公開
- ・ 誰でもWEB上で内容を確認できる
- ・ 市民が内容を確認しやすい環境をつくる

2 パブリックコメントの募集



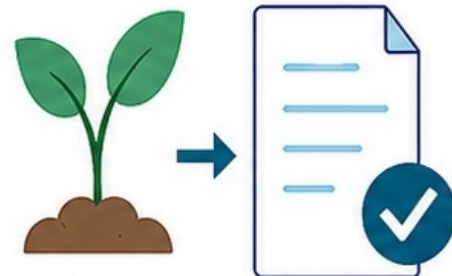
- ・ 市民意見を募集
- ・ オンラインのみで受付
- ・ 子どもから大人まで参加可能

3 提出された意見の整理・分析



- ・ 提出意見を整理
- ・ 論点ごとに分析
- ・ 多様な価値観を可視化

4 条例素案への反映検討



- ・ 意見への対応方針を整理
- ・ 条例素案への反映を検討
- ・ 市民参加による条例づくりを実現



市民一人ひとりの声が、未来の条例を育てる



多角的な情報発信

条例づくりの過程や市民の声を広く発信し、市民がいつでも進捗を知り、参加できる環境をつくる。また、条例制定後も子どもの権利や子育て支援について考え続ける機運を醸成する。

実施期間

事業期間中

を通して実施
(随時更新)

対象

一般市民

(子ども～大人まで)

主な実施内容

1 行政媒体を活用した情報発信



- ・宮古島市公式LINEで情報発信
- ・宮古島市広報誌へ掲載
- ・市民が最新情報を確認できる環境づくり

2 地域メディアを活用した情報発信



- ・宮古ストーリー掲載
- ・地元新聞への掲載
- ・地元テレビ番組で情報発信

3 プロジェクト専用ブログの構築・運用



- ・専用ブログを構築
- ・条例づくりのプロセスを継続発信
- ・誰でも振り返られる記録を蓄積

4 会議や市民の声のアーカイブ化



- ・市民会議等の開催報告
- ・進捗状況を共有
- ・市民の声や対話を記録

情報発信の循環イメージ

見える化した情報を届け、参加と対話へつなげる

フェーズ1 情報を集める



市民会議・各種会議

フェーズ2 情報を整理する



議事録・記事作成

フェーズ3 情報を届ける



LINE・広報誌・新聞・テレビ・ブログ

フェーズ4 参加と対話につなげる



市民参加・条例づくり・地域への定着



市民とともに育てる条例を、いつでも、誰でも、身近に。